

市の重点課題	園の重点項目	自己評価	達成状況	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが興味を示したときを逃さず、環境構成や援助の在り方を考え、実践する。 子ども同士の対話を大切にし、学びが深まっていくことを理解し、子どもが主体的・対話的で深い学びにつながっていくことを考えていく。 実体験を重視するなかで、子どもの学びを深めるツールの一つとしてタブレット等を活用することで教育DXの推進に努める。 子どもの興味関心に沿って日々の環境構成を考え、学びが生まれる遊びや生活の大切さを振り返りながら、保育を実践していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味関心へのアンテナを常に張り、探究心や創造性を育むための視点を持ちながら、意図的・計画的に環境を準備したり、援助したりしてきた。また、子ども同士で対話を重ねながら遊びを創り出していき姿を大切にし、教師が時に見守ったり、共に試したりするなど、子どもから主体的に学ぼうとする姿を支える支援ができた。 変化する子どもの興味関心に応じて、その都度環境を見直しながら、機会を逃さず、即興性を意識して保育を行うことを心がけた。 ICTの活用では、タブレットやマイクروسコープを用いて、子ども達が、虫の足や腹部などの細部や草花を撮影したり調べたりしながら、親しみを持ち、遊びをより豊かにするものとして定着した。また、年中では、生き物の生態や折り紙の折り方や体操など、気になったことを調べるツールとして活用することができた。年間を通して、遊びや行事の中で活用したり、新しい遊びを創ったりすることができた。 地域の身近な自然と触れ合う機会を大切に、継続的に飼育観察したりする環境構成の工夫をし、「死」や「新しい生命の誕生」の場面に出会い、子ども達が、生き物への興味関心へ高まり、命の神秘や不思議を実感し、愛着をもち接する姿がみられた。 	
あたたかさや動きがいにあふれる園づくり	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人とかかわりのなかで、様々な文化や価値観に触れる機会をもち、人に対する思いやりの気持ちをもてるようにする。また、生命の尊厳や人権に関わること、よいことや悪いことに気付かせ、自分で考えて行動する力を育むことで、将来的ないじめの抑止につなげていく。 毎月の研究会等を通して、お互いの保育を理解し合ったり、学び合ったりすることで、教師も積極的に対話し、保育について考える。 行事の在り方や日常業務などの精選、見直しを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを真ん中においた行事や生活の営みを送れるよう、子どもたちに投げかけ、自分たちで考えて決めていくことを大切にしてきた。日々の出来事、行事など、共主体で思いを出し合い、形にしてきた過程をドキュメンテーションにまとめて遊びや学びを共有できた。 ドキュメンテーションや研究会、資料を作る際に、何を学んだかに加え、次はどうするかまで考えることで、学びをつなげられた。それにより、子どもの気持ちに寄り添ったり、興味や関心に迫ったりすることができるようになった 管理職、学級担任が小学校の授業の参観をしたり研究会に参加したりして研修をすることができた。それぞれの学年に応じた教育や授業の構成、教師の意図などを学ぶことができた。 行事ごとにわらいと内容を立案したことで、職員がそれぞれの担当業務を中心に、責任をもち優先順位を考えながら、効率的に実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの好奇心や探究心を育むための環境構成や実践をまとめる 教員間での幼小の連携を行いながら、架け橋プログラム作成につながる、実践や方法をまとめる。
全教職員の共通理解・共通行動による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 園長の経営方針のもと、教頭・主任を中核に、目標を具現化し、教育活動を行う。 全職員(会計年度任用職員を含む)の協力体制のもと、園児・保護者が安心して通うことができるように、指導内容等について共通理解を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が、興味関心をもった遊びを、全職員で理解、共有することにより、子ども達の創造性と探究心の高まりへと繋がった。 達目洞の自然を守る会、環境保全課など関連機関の方々との連携や交流を継続的にを行い、専門的な知識に触れ、身近な生き物に興味や関心をもって主体的な学びに取り組み姿に繋がった。 園内の特別な支援を必要とする子どもの割合が4割ほどあるが、その子ならではの有効な支援方法を探り、個別の教育支援計画、個別の指導計画などを作成・活用し、全職員、保護者と協働してかかわることが出来た。又、関係機関の担当者や情報共有しながら、集団と個別での育ち合いを確かめ合い、各々の役割を果たしながら連携することが出来た。 担任やサポーター等がコミュニケーションを図り、支援の方向性や意図を共有して保育に臨むことで、一貫したかかわりが出来るようになり、子どもも見通しをもって安心して過ごすことができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資質向上、子どもの発達理解を高めるために、各自が研修に参加したり、オンライン研修を視聴したりして、学びを深めていく。
家庭・地域に開かれた園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 園から地域の会議や活動に参加したり、園の活動に地域の人材を生かしたりすることで、地域の自治会や老人クラブとの連携を図る。 園の教育活動について、教職員や保護者・地域住民、学校運営協議会等による学校評価を実施公表し、幼稚園経営の改善に生かす。 保護者や地域、未就園児の保護者等に、園の教育方針や内容等をHPを通して積極的に発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協働により、泥んこ遊び、稲刈り、もちつき、木のおもちゃ作り、お茶の会①②、長森駅前オープニングセレモニー、水海道ふれあいサロンの方々との七夕交流、地域の秋祭り参加、など子どもたちにとって、伝承遊びや季節の行事、地域行事の参加など、地域の方と触れ合う豊かな実体験の機会となった。 田植え、稲刈り、もちつき、お茶の会など、継続して関わる機会を作る中、子どもが主体的に観察したり、変化を知ったり、準備したり地域の人との繋がりのおかげで行えていることを感じたりすることができた。 記者提供を積極的に行い、新聞やメディア掲載による、園行事や活動の発信につながった。 毎週配信するスマート連絡帳、ホームページによる通信や今週の1場面では、写真を多く取り入れるようにし、より多くの人に見てもらえるよう、内容やレイアウトを工夫したり、子どもの様子や育ちが伝わるようにしたりした。それにより、保護者が、園の教育内容を理解し、幼稚園での遊びが家庭で継続され、園教育の理解と子どもの育ちに成果があった。 保護者アンケートの結果を受け、園長が個別に懇談を行い、保護者の不安を取り除くことに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談や意見に、各自が組織の中の役割を意識し、職員間で連携を取りながら、更に誠実に対応していく。
教育環境と幼稚園財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる事態を想定するなかで、防災・防犯教育を実施し、振り返りを通して見直し改善を図る。 学校安全教育計画に基づき、危機管理意識を高くもち、日頃から子どもへの安全教育を行う。 個人情報や財務や納入金の扱い等、ダブルチェックを行い、適切な管理を行う。 危機管理マニュアル、異常事案リスク、園内安全マップ等を職員に周知をする。また、必要であれば修正を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健年間計画に沿って、子どもが健康で安全に過ごせるよう、教材を工夫して作成する等して、啓発・実践できた。感染症に対する予防や対策について、養護教諭による保健指導を通して、子ども自身の危機管理意識が高まった。子どもたちに指導した内容を、担任が繰り返し指導や見届けを行うことができた。基本的な生活習慣は、家庭を巻き込みながら、年3回の『いきいきチェック』(早寝早起き、朝の排便、メディアに触れる時間の削減)及び、年3回の『けんこうせいがかうカード』(はみがき、みだしなみ、感染症予防)を行い、子どもだけでなく、保護者の意識が向上した。年3回の『性の指導』では、自分のプライベートゾーンや、自分のルーツ、ジェンダーフリーについての学びが定着し、自分の身を守ることや、自分が愛されていると実感し、自己肯定感を高めることが繋がっている。養護教諭の取り組みが評価され、東京都江東区役所からも視察があるなど、先進的に実践ができた。 命を守る訓練を繰り返し行い、想定状況に合わせた方法を子どもたちと考えたり、振り返ることを努めたりしたことで、それぞれの学年なりに、自分で考えて行動する姿に繋がった。また、保健指導で覚えたことを子どもたちと一緒にしたり、啓発したりした。また、怪我をした際には、クラスで再度共有することで、安全に遊んだり生活したりすることの大切さを考えられるようになってきた。 教員間で、危険箇所の確認や、子どもにどのように指導するか等の情報を共有して保育にあたった。環境の安全面、危険箇所や遊具の使用について、早急に対処するよう努めた。 幼稚園で扱うお金は、公費や預かり金であることを意識し、こまめに在庫のチェックを行い無駄のないように使用や購入に努めた。 各職員が、納品のチェック、支払業務をスムーズに行えるように、繰り返し会計研修を実施し確認することで、適正な会計事務執行が出来るようになった。 	